



高田延彦・向井亞紀夫夫妻が主宰する、アマチュアレスリングの要素を取り入れた体操教室(DKC)が初めて沖縄で開催されるというので、のぞきに行ってきた。なぜ子供たちはあんなにも盛り上がっていたのか。答えは簡単。競争心を刺激する要素がちらばめある。驚いた。参加している子供たちが、とんでもなく楽しそうなのである。

最初は違う。どの子もおっかなびっくりで、中には親に言われて無理やり連れてこられたというの

高田夫妻には申し訳ないが、サッカーとレスリング、競技自体の

AC上方注1次リーグ8組上位2チームの計16クラブが全試合ホームアンドアウェーで行われる決勝トーナメントに進出。1次リーグから準決勝まで東西地域別で行う。決勝は1月27・28日

練習を楽しむことで生まれる技術

が一目瞭然、完全にふてくされている子供もいる。ところが、3時間近いカリキュラムが終わる頃には、小学校低学年が参加した午前中のクラスも、高学年が参加した午後のクラスも、笑顔と熱気であるのは見えたことがない。

DKCでは、参加者全員が手をつけないで輪を作り、スクワット100回をやって練習を締めくっていたが、あれほどの連帯感も、見たことがない。

DKCは違う。そこで、「役を立つ」というのは、懸命に知識と技術を教えていく。そこでは、熱心な指導者たちが一生一世をかけてやっているから——そんな

魅力、面白さを比較すれば、前者に重配をあげる人が圧倒的でないかと思う。だが、わたしの知る限り、少年サッカーのス

クールでDKCほど笑顔があふ

っていた。

いま、日本中にはたくさん

サッカースクールがあり、そこ

では、熱心な指導者たちは、

たちを楽しませようという観点はないかと思う。だが、わたしの知る限り、少年サッカーのス

クールでDKCほど笑顔があふ

ていた。サッカースクールがあり、そこ

でDKCほど笑顔があふ

ていた。サッカースクールがあり、そこ

では、熱心な指導者たちは、

勝敗だけを追い求めるなら

勝敗だけを追い求めるなら

勝敗だけを追い求めるなら

勝敗だけを追い求めるなら